

国際バカロレア・ディプロマ・プログラム
認定校・候補校・関心校 御担当者 様

文部科学省IB教育推進コンソーシアム事務局
事務局長 小澤 大心
(本委託事業：アオバジャパン・インターナショナルスクール)

デュアルランゲージ・ディプロマ・プログラムに関するアンケート調査について（依頼）

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

国際バカロレア機構と文部科学省は、日本におけるIBの普及に向け「デュアルランゲージ・ディプロマ・プログラム（以下、「日本語DP」）」プロジェクトを共同で実施しています。日本語DPでは、六科目のうち二科目は英語で、四科目は日本語で履修することができます。

この度、文部科学省IB教育推進コンソーシアム事務局では、この日本語DPについて状況を把握し、今後の国際バカロレア推進に活用するため、標記アンケート調査を実施いたします。

御多用のところ大変お手数をお掛けいたしますが、下記要領により御回答くださいますようお願い申し上げます。

記

1. 調査対象

日本国内の国際バカロレア・ディプロマ・プログラム認定校・候補校・関心校のうち、学校教育法第一条に定める学校（以下、「一条校」）を対象に実施します。日本語DP校のみならず、英語でディプロマ・プログラムを実施している学校におかれましても、御協力のほど何卒お願いいたします。

2. 回答期限

2019年11月29日（金）17:00

3. 回答方法

- ・ DPコーディネーター等の教育課程編成の責任者に、別添のアンケート用紙に御記入いただいた上で、以下の連絡先までメールまたはFAXで御回答をお願いします。
- ・ 電話による回答も可能です。御希望の場合は、御都合の良い日時を事務局まで御連絡ください。
- ・ ウェブページから御回答いただくことも可能です。以下のURLから回答を御記入ください。この場合、後程確認のためにお電話をさせていただく場合がございますので、あらかじめ御承知おきください。
URL: <https://www.bbt757.com/sv1Enquete/jsp/user/top?id=DLDP2019>

4. その他

- ・ 本調査結果は、文部科学省における今後の国際バカロレア推進のための施策立案・改善等に活用させていただくとともに、今年度中にコンソーシアム事務局の活動報告書として取りまとめる予定です。
- ・ 頂いた回答は統計的に処理し、学校名、所属、氏名等が特定できる形では公表いたしません。
- ・ 本調査に際して取得したメールアドレスは厳重に管理し、本調査の目的以外では使用いたしません。
- ・ 本調査について御質問等ございましたら、事務連絡先まで御連絡ください。

以上

<本件担当>

文部科学省大臣官房国際課国際協力企画室外国人教育政策係
加藤 久乃・富田 早紀

<事務連絡先>

〒179-0072 東京都練馬区光が丘7丁目5-1
文部科学省IB教育推進コンソーシアム事務局（アオバジャパン・インターナショナルスクール内）
事務局窓口：小澤大心・金子 香
TEL:070-4448-1404 / FAX: 03-5997-0091 / E-MAIL: consortium.info@aobajapan.jp

<デュアルランゲージ・ディプロマ・プログラムに関するアンケート調査>

所属学校名： (認定校・候補校・その他)

回答者役職：

回答者名：



Web回答用QRコード

1. 貴校は国際バカロレア・ディプロマ・プログラム（以下「IBDP」）について、グループ1、2以外の科目をどの言語で実施していますか／したいと考えていますか。どちらか一つを選んで御回答ください。

ア 全科目英語（またはフランス語、スペイン語）で実施

イ 一部科目は日本語で実施（日本語DP校）

2. 貴校のIBDP履修者数の推移を御記入ください。

年度	2016卒	2017卒	2018卒	2019卒 (現高3生)	2020卒 (現高2生)	2021卒 (現高1生)
履修者数						

※2019年度以降については、現在DPコースに在籍している生徒数を御記入ください。IB校として認定を受ける前であった等の理由でIBDPの卒業生／履修者がいない年は「-」、現高1生等について、コース分け等の関係で履修者数が決まっていない場合は「未定」と御記入ください。

※IB資格の受験者数ではないことから、IB機構が把握していないためにお伺いしている次第です。

3. 2019年卒業生（現高3生）について、以下に指導言語と科目履修人数をご記入ください。

科目名	指導言語	SL (人)	HL (人)	科目名	指導言語	SL (人)	HL (人)
Economics				Math			
Geography				Mathematical Studies			
History				Music			
Biology				Visual Arts			
Chemistry				その他 ()			
Physics				その他 ()			

※2019年度にIBDPの高3生が在籍していない場合、高2生の科目別履修人数を御教示ください。高1生しか在籍していない、またはIBDPの履修者がまだいない場合は、人数については空欄で構いません。

※上に挙げた科目以外を開講している場合は、適宜行を増やしてご回答ください。

4. 貴校のIBDP履修者のうち、海外の大学等高等教育機関に進学した人数を御記入ください。

年度	2016	2017	2018
海外進学者数 (人)			

御回答誠にありがとうございます。裏面の質問にも引き続き御協力のほどよろしくお願いたします。

【以下は問1でアを選んだ学校のみ御回答ください】

5-1. 英語等でIBDPを実施している理由について、以下の選択肢の中から当てはまるものを全て御回答ください(複数回答可)。

- ア 生徒により高度な英語等の語学力を身に付けてもらうため
- イ 留学生等の日本語母語話者でない生徒を積極的に受け入れるため
- ウ 学生または保護者のニーズに応えるため
- エ その他 ()

5-2. 英語等でのIBDPの実施にあたって、課題が御座いましたら、以下の選択肢の中から当てはまるものを全て御回答ください(複数回答可)。

- ア 英語等で授業する教員の確保(補足等:)
- イ 英語等で授業する教員の負担(補足等:)
- ウ 英語等で履修する生徒の確保(補足等:)
- エ 英語等で履修する生徒の負担(補足等:)
- オ 教材の選定・作成(補足等:)
- カ 特に課題として感じていることはない
- キ その他 ()

最後まで御協力いただきありがとうございました。

【以下は問1でイを選んだ学校（日本語DP校）のみ御回答ください】

6-1. 日本語DPを実施している理由について、以下の選択肢の中から当てはまるものを全て御回答ください（複数回答可）。

- ア 英語で授業できる教員を確保することが難しかったため
- イ 英語等で授業する教員の負担が大きいため
- ウ 全科目英語で受講するのは生徒にとって負担が大きすぎると考えられたため
- エ 英語等で履修する生徒の確保が困難であると考えられるため
- オ 日本語での授業の方が生徒の理解が高まり、教育効果が高いと考えられるため
- カ 日本語DPの方が好成績をとりやすく、進学上有利と考えられたため
- キ その他（ ）

6-2. グループ3からグループ6の科目のうち、英語で実施している科目名と、英語で実施する科目としてその科目を選んだ理由を御記入ください（複数回答可）。

※複数の科目を英語で開講している場合、それぞれについて理由を御回答ください。

科目名：

理由：

- ア 英語で授業を実施できる教員が確保できたため
- イ 科目の性質上、英語で授業するのが適当であるため
- ウ その科目を英語で授業することが、生徒により高度な英語力を身に付けてもらうために有用であると考えられるため
- エ その他（ ）

6-3. 上記で挙げた科目について、英語での授業実施に際して課題が御座いましたら、以下の選択肢の中から当てはまるものを全て御回答ください（複数回答可）。

- ア 英語等で授業する教員の確保（補足等： ）
- イ 英語等で授業する教員の負担（補足等： ）
- ウ 英語等で履修する生徒の確保（補足等： ）
- エ 英語等で履修する生徒の負担（補足等： ）
- オ 教材の選定・作成（補足等： ）
- カ 特に課題として感じていることはない
- キ その他（ ）

御回答誠にありがとうございます。裏面の質問にも引き続き御協力のほどよろしくお願いたします。

- 6-4. 上記の課題が解決された場合、生徒への教育効果を最大限高めることや、進学上の選択肢の多様性を確保することなど、IB教育を最も生徒にとって有益な形で提供するには、どの言語でIBDPを実施するべきとお考えでしょうか？ 以下の1～5のいずれか一つを選択して御回答ください。

- 5：日本語で実施した方が良い
 4：やや日本語で実施した方が良い
 3：どちらでもよい
 2：やや英語で実施した方が良い
 1：英語で実施した方が良い

Economics	5	・	4	・	3	・	2	・	1
Geography	5	・	4	・	3	・	2	・	1
History	5	・	4	・	3	・	2	・	1
Biology	5	・	4	・	3	・	2	・	1
Chemistry	5	・	4	・	3	・	2	・	1
Physics	5	・	4	・	3	・	2	・	1
Mathematics: Analysis and Approaches	5	・	4	・	3	・	2	・	1
Mathematics: Application and Interpretation	5	・	4	・	3	・	2	・	1
Music	5	・	4	・	3	・	2	・	1
Visual Arts	5	・	4	・	3	・	2	・	1

7. 日本語DPを実施する中で、少なくとも二科目を英語で授業して良かった点、悪かった点、その他お気づきの点について御自由に御記入ください。

良い点：

悪い点：

お気づきの点：

8. その他、日本語DPに関して御意見等ございましたら、御自由に御記入ください。

最後まで御協力いただきありがとうございました。